

令和8年度

教育課程研修会

群馬県教育委員会 東部教育事務所

本日の研修の内容

- 1 はじめに
- 2 講 義 「通常の学級に在籍するちょっと気になる
児童生徒への支援の在り方」
講 師 上原 篤彦 氏(共愛学園前橋国際大学 教授)
- 3 協 議 (例)「学校や学級で取り組みたい支援について」
「困り感から考える具体的な支援」
「本校の目指すインクルーシブな学校」 等
- 4 おわりに

はじめに

第4期 群馬県教育振興基本計画
群馬県教育ビジョン
計画期間：2024年4月～2029年3月

最上位目標 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成—

相談していいし、助けを求めでもいいんだよ
「学ぶ」って楽しい
試行錯誤しよう。失敗してもいいのだと知ろう。それが自分を強くしてくれるよ。
「ナナメの関係」や「ゆるいつながり」も大事なんだよ
知らないことを知るの楽しいよ
リアルでも、デジタルでも色々なつながり方があるよ
社会をつくるのも変えていくのも「誰か」じゃなくて「自分」だよ。
動き出してる仲間もいるよ
自分も、みんなも、幸せになろう

— これからの時代を生きていく私たちに必要なこと —
自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

人は、誰しも、生まれついて 自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力を持っている。

○一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
○子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
○地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

現状の課題

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして与えすぎる教育が、生まれつき持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないか？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要能力は、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会

第4期 群馬県教育振興基本計画 群馬県教育ビジョン 計画期間：2024年4月～2029年3月

〈最上位目標〉

自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて

—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成—

2

多様性を尊重し、 協働する力の育成

全ての子どもの可能性を最大限に伸ばすとともに、
一人一人が自分を大切にし、異なる状況にある他者
を尊重し、対話や交流を行い、互いにとって良い方
向を見い出そうとする姿勢を身に付ける

- 特別支援教育の推進
- 互いを理解・尊重する活動の推進
- 多様な価値観を踏まえた
協働の推進



※「目指す学習者像」は、5つの独立した人物像ではありません。一人の人に漏れはあっても身に付けてほしい要素として位置付けています。

“学び”は学校だけじゃない。
様々なつながりで
様々な場所で
様々な学び合いを。
—— 持ち続ける視点 ——
学校で、家庭で、地域で…
自ら学び育つ、共に学び育つ

会課題を
事化して、
動に移す

5

時代の変化に対応した
教育イノベーションの推進

教育の「不変（変わらない本質）」の部分も「流行」の部分も大切にしながら、魂を挙げて「始動人」（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）の育成につながる新しい取組に挑戦する

- 自分で考え動き出す（課題解決能力育成）
- デジタルツールを使いこなす（デジタル人材育成）
- 世界に目を向ける（グローバル人材育成）
- 教育DX（DXを基盤とした新しい学びの確立）
- 全ての人が活躍できる（誰一人取り残さない学び）

に向けた
・協働の推進

5

全ての子どもを学びを
支援する取組の充実

全ての子どもを可能性を最大限に伸ばす教育を目指す。教育費負担の軽減を図りつつ、個別の課題を抱える子どもに対して、「教育」と「福祉」「保健」「医療」「司法」「地域」「民間団体・企業」等の連携により、年齢や育歴の多様性等に応じた支援を行う

- 教育に係る経済的支援
- 不登校児童生徒等への支援の充実
- 様々な育歴要因により本来持つしなやかさや力強さを発揮しづらい子どもに対する支援



I はじめに

群馬県が目指す「インクルーシブな学校」について

インクルーシブな学校とは

**「すべての子どもたちの多様性を包摂する(インクルーシブな)
環境の構成」を実現し、個性が輝く学校**

～ 子どもたちが選ぶ学び方・学ぶ場所、子どもたちへの必要な支援 ～



- 多様な子供たち（障害、外国ルーツ、不登校、貧困、性差等）を含むすべての子どもたちを包摂して支援できる仕組みを学校に取り入れる。
- 教育以外の専門家（臨床心理士、作業療法士等）と連携しながら、具体的な支援を行う仕組みを学校に取り入れる。

Ⅰ はじめに

本研修会のねらい

群馬県教育ビジョンの重点政策である「多様性を尊重し、協働する力の育成」の「特別支援教育の推進」に視点を当てた研修を通して、個別最適な指導・支援に基づくインクルーシブな学校づくりに関する教職員の資質向上を図る。

講 義

「通常の学級に在籍する ちょっと気になる児童生徒への 支援の在り方」

講 師 上原 篤彦 氏

(共愛学園前橋国際大学 教授)

講師紹介

講 師 上 原 篤 彦 氏

共愛学園前橋国際大学
国際社会学部幼児教育・保育コース 教授



2 講 義

3 協 議

協 議

「個別最適な指導・支援に基づくインクルーシブな学校づくり」

(例)「学校や学級で取り組みたい支援について」

「困り感から考える具体的な支援」

「本校の目指すインクルーシブな学校」 等

※ 学校の実情に応じて、30～45分程度の協議に
取り組んでみましょう

3 協議(例① 学校や学級で取り組みたい支援について)

協議の進め方について

- (1) 本校・本学級での現状や課題を書き出しましょう。
- (2) 講義を受けて、学級で取り組むことができそうな支援をあげてみましょう。
- (3) 取り入れた支援によって期待される子どもたちの姿を書き出しましょう。
- (4) 学校として共通して取り組めるとよいことを話し合いましょう。



3 協議(例② 困り感から考える具体的な支援)

協議の進め方について

- (1) 本校の学校教育目標を書き出しましょう。
- (2) 目指す子どもの姿を具体的にあげてみましょう。
- (3) 現在の課題を書き出しましょう。
- (4) 講義を受けて取り組めそうな支援を考えましょう。
 - ・すべての子どもたちへの関わり方
 - ・気になる子への支援
 - ・全校で共通して取り組みたいこと 等



3 協議(例③ 本校の目指すインクルーシブな学校)

協議の進め方について

- (1) 講義からの学びを共有しましょう。
- (2) 自校の現状を書き出しましょう。
- (3) ちょっと気になる子の困り感を考えましょう。
- (4) 具体的な支援について考えましょう。



- ・一次支援(全員にできる支援)
- ・二次支援(個別の配慮)
- ・三次支援・連携(組織的対応・連携機関)



- (5) 明日からできそうなこと(個人・学校) 等

4 おわりに

視聴後アンケートについて

＊各学校代表１名のご回答をお願いいたします。

回答〆切り：９月１８日（金）

アクセスはこちら

令和８年度 教育課程研修会

二次元コード
(アンケート回答)

4 おわりに

ご清聴ありがとうございました